

文化・芸術

「裸婦」

1916年ごろ、鉛筆・紙
29・5センチ×22・5センチ

アメデオ・モディリアニ

(1884～1920年)

1906年、故郷イタリアを離れ、パリへ渡ったモディリアニは、09年ごろから彫刻家フランク・シーの助言を得て立体制作に傾倒しますが、のちに絵画に回帰します。第1次世界大戦中もパリにとどまり、16年ごろからは詩人で画商のズボロフスキの支援を受け、裸婦像の連作に本格的に取り組みました。その成果は、翌17年に開催された彼の生涯唯一の個展に結実します。油彩画に加えおよそ30点の素描も出品されました。

本作は鉛筆のみで描かれた素描ながら、生を刻むように引かれた線に、モディリアニの線に対するまなざしの深さが読み取れます。その抑制された表現の中に彼の造形意識が静かに息づいています。

(小此木)

《名画の扉》

大川美術館企画展「リニューアル記念展 エコール・ド・パリの画家たちと松本竣介」から

